

高知工科大学におけるスタディスキルズ授業について

高知工科大学 フェロワー ○伊藤 綱男
高知工科大学 フェロワー 草柳 俊二

1. はじめに

高知工科大学では、平成15年度から新入生を対象とした『スタディスキルズ』(以下SSと称す)教育を実施している。SS教育は自身で答えを見出していく力を養うことを目的としており、エンジニアリング・デザイン教育のコンセプトが基礎となっている。実施に踏み込んだ背景には、就職活動において不活発な学生は入学当初から不活発であるとの分析結果があり、何らかの対策が必要とされていたことがある。SS教育は、学生がポジティブに活動することに重点を置き、自身で見出したテーマに取り組み、課題解決を図り、その中で大学で必要な学習の基礎学力を育成するという方針のもとに、また社会に出るための心構え、すなわち就職に至るまでの人間力や社会対応能力を高めるキャリア教育の一環としても位置づけられている。

2. SSの目標

授業を通じて一連の課題を経験することにより、以下に示す能力の習得を目指す。(1)基本的スキルとして、読む能力、書く能力、聴く能力、話す能力 (2)考えるスキルとして、創造的思考、問題発見、問題解決、意思決定 (3)社会的スキルとして、コミュニケーション力・自己表現、挨拶などの生活態度、自己管理、自律性・責任感、克己心・協調性、進路や社会性など。

3. 教育講師制度

SS授業を専門教育の教員とは違った専任の教員に担当させるものとして教育講師制度が発足した。55歳を中心とする企業における技術者出身者を中心に実務経験者が採用された。現在13名(企業出身者10名、高校教員経験者3名)がこの教育にあっている。

4. 講義概要

学部1年生の1学期(1、2クオータ)に、1組平均10~11人で実施し、2単位の講義科目として位置づけられており、学生は1、2クオータで別々の課題に取り組むことになる。教員が一方向的に教えるのではなく、学生自身が積極的に活動して、教員のアドバイスを受けながら、取り組むものとしている。筆者(伊藤)が担当した建設系学科である社会システム工学科の学生へのSS講義は、「社会基盤施設について考察する」という大テーマのもとに、まちづくり、道路・交通、河川、環境などの分野から興味あるテーマを自ら選定し、自主的に取り組むものとした。ねらいは、社会基盤施設の役割を把握させると共に、現地調査の手法(現場、現物、現実)を、また問題解決手法(解決に向けての改善策の考え方や手順)の基本を身につけることにある。

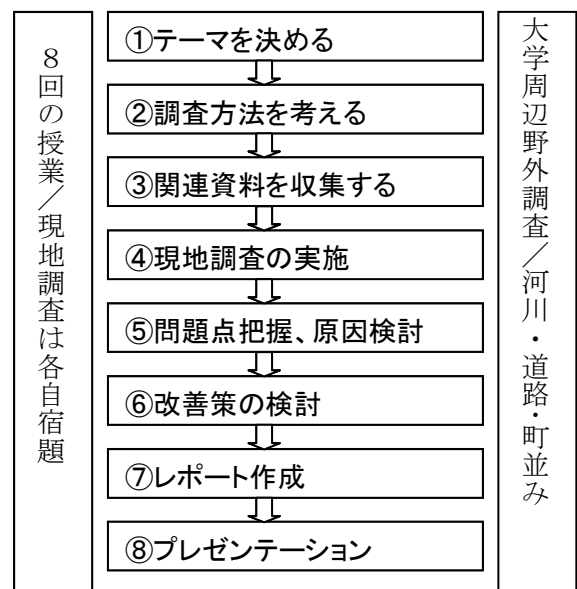


図1 スタディスキルズの取組み

キーワード スタディスキルズ、新入生教育、学習スキル、エンジニアリング・デザイン教育

連絡先 〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮の口185 高知工科大学 TEL0887-57-2630

毎回の授業の内容は以下の通りである。

第1回：授業のガイダンス、第2回：自己紹介、大学生活の目標、授業内容説明、第3回：テーマへの取り組み、社会基盤施設の概要説明、テーマの選定、ハガキを書く、第4回：大学周辺野外調査 第5回：自分のテーマの発表、第6回：現地調査結果の中間報告、レポートの書き方指導、第7回：発表会の準備、レポート個人指導、第8回：最終レポート提出、プレゼン(2Qではパワーポイント)、相互評価。なお、現地調査は各チームごとに空き時間等を利用して実施している。レポート作成(2000字を目標)は個別の提出である。

5. 具体的なテーマへの取り組み

学生はそれぞれに自分のテーマを設定し取り組んだ。表1に示す。ヒアリング先はたとえば、ダム管理事務所、商店街組合事務所、商店主、街への来訪者、再開発事務所、市役所、美術館、県警交通管制室、河川敷に来ていた方へのアンケートなど多彩に実施された。

6. スキル達成度、学生からの反応・評価

スキル構成要素の26項目について効果があったかどうかについて履修者にアンケートを実施した。表2に評価された上位項目と効果がなかった下位項目を示す。自由意見をみると、その多くは授業に肯定的であり、「自己を成長させる機会であった、自分で考え行動する力がつけることができた、グループでの取り組みは大変だったが最終的には満足に行くレポートとなった、人の意見を聞くことの大切さ、協調性の重要性を学んだ、同時に自分の意志をしっかりとそれを相手に理解してもらうことの難しさ、もどかしさを痛感した」などの感想であった。

7. SS科目の位置づけの再検討

SS授業は、表3のように位置づけられる。入学当初での教育プログラムではあるが、自主的・現実的なテーマ選定、問題解決型、現場重視型、体験型を指向した内容を有している。また、各種スキルや社会基盤施設の基礎知識を修得すると同時に「社会の要求を解決するためのデザイン能力」を身につける最初の授業とも言える。SS授業の役割は、高校生から大学生への転換教育であ

表1 学生が取り組んだテーマ(例)

区分	テーマ
まちづくり	高知駅周辺の再開発 帯屋町商店街のまちづくり 土佐山田町中心商店街
道路・交通	高知県の高速道路 大学周辺道路の安全性 高知市内の路面電車
河川	物部川河川環境 仁淀川の河川構造物 物部川のダム
環境	土佐山田町のごみ問題 不法投棄問題 海岸でのごみ問題

表2 SS科目の効果

区分	項目
効果があったとの評価 (上位項目)	1位 人の話に耳を傾ける 2位 大学生活の目標 3位 レポート作成力 4位 問題意識を持つ 5位 文章を書く力
効果がなかったとの評価 (下位項目)	1位 質問の仕方 2位 本を読む 3位 読解力 4位 グループでアイデアを出す 5位 グループで発言する

表3 SS科目の特徴

区分	内容
年次	1年生入学当初段階
科目登録	共通、人文社会科学(基礎科目)、人材育成
取り組み方式	自主的なテーマ設定による課題研究型
思考手順	問題解決、改善策検討
スキル修得手法	現場重視、体験型
成果	レポート、プレゼン

り、大学生活や学習に意欲を持つこと、大学生としての自立を促すことが基本となっているが、エンジニアリング・デザイン教育の目的である“自ら解答を創り出す力”を付ける機能も備えている。こういった教育は、今後多様な学生が益々増大する傾向にあることから、各自の関心ある分野に注目させつつ、現場体験的なスキルの修得、社会への対応性向上などを通じて、意欲と意識を高める教育方法として重要となってくると思われる。